

# JSS-TOOL



取扱説明書

**JAPAN SECURITY SYSTEM**  
Safety and trust keep to the future

製品と共に提供される“JSS-TOOL”（統合ネットワークインストーラツール）プログラムは、製品運用のための遠隔ソフトウェアです。ネットワーク接続を通じて遠隔地から製品に接続して製品の設定を変更したり管理できます。製品の取扱説明書を参照して接続およびインストールを完了した後、ユーザのPCでJSS-TOOLを実行します。

## 実行

プログラムの実行および円滑な使用のために次のようなPC仕様をお勧めします。

- OS: Microsoft® Windows® 7 32-bit (Home Premium, Professional, Ultimate)、Microsoft® Windows® 8 (Pro, Enterprise)、Microsoft® Windows® 10
- CPU: Intel Pentium IV (Celeron) 2.4GHz以上
- RAM: 512MB以上(Windows® 10 1GB(32bit),2GB(64bit))
- VGA: AGP、Video RAM 8MB以上 (1024x768、24bpp以上)

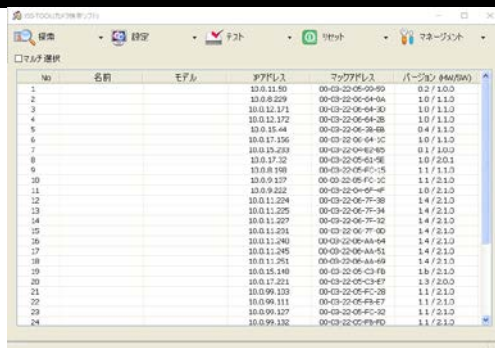
1. JSS-TOOLのCDを準備します。
2. “JSS-TOOL”フォルダ内の“JSS-TOOL.exe”ファイルをダブルクリックしてJSS-TOOLプログラムを実行します。
3. 言語オプションが表示されるので、言語オプションを選択します。

“Select language when starting”を選択し、プログラム起動時に使用する言語を選択します。“Always start using the language below”

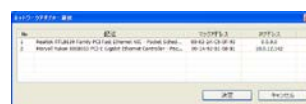
を選択してリストで使用する言語を選択すると、常に選択された言語でプログラムを起動します。プログラムを実行してから言語オプションを変更することもできます。

4. 次のメイン画面が表示されると、製品に接続して設定を変更できます。“マルチ選択”オプションを選択すると、一度に複数の製品を選択して設定を一括変更できます（同一モデルに限る）。

- ✓ JSS-TOOL実行中は、PCのIPアドレスを手動で変更しないでください。  
手動で変更する場合、製品とPC間のネットワーク接続が切れることがあります。
- ✓ この製品はOpenSSLツールキットを利用するためにOpenSSLプロジェクトによって開発されたソフトウェアを含む (<http://www.openssl.org/>)。



- ✓ 一部機能については“マルチ選択”オプションに対応していません。
- ✓ ユーザのPCに1台以上のネットワークアダプタが設置されている場合、JSS-TOOLを実行すると次のような画面が表示されます。製品と通信するネットワークアダプタを選択します。



## 言語オプション/ソフトウェアバージョン

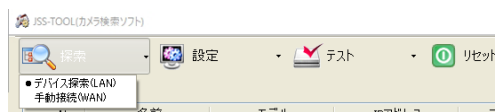
JSS-TOOLタイトルバーの任意の位置でマウスを右クリックすると、メニューが表示されます。



JSS-TOOLプログラムで使用する言語を変更したり、プログラムのバージョンを確認できます。

## 検索

接続する製品を検索します。メイン画面で“検索” アイコンをクリックすると、検索メニューが表示されます。



## デバイス検索 (LAN)

LANで接続されている場合、リストから製品をすぐに検索できます。接続する製品を選択します。

## 手動接続 (WAN)

WANで接続されている場合、製品のアドレスを入力して検索します。検索メニューで“手動接続 (WAN)”を選択すると、設定ウィンドウが現れます。

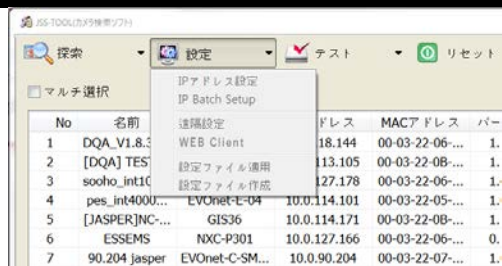


検索方法を設定した後“接続”ボタンをクリックすると、製品情報がメイン画面に現れます。

- IPアドレス: 検索したい製品のIPアドレス、またはポート番号を入力します。
- ドメイン名: 製品がドメイン名サービスを使用する場合DNSサーバに登録された製品の名前またはポート番号を入力します。
- UCN使用: 製品がUCN機能を使用する場合、UCNサーバに登録された製品のUCN名前を入力した後、UCNサーバのアドレスまたはポート番号を入力します。UCN機能に関する詳しい内容は、製品の取扱説明書を参照してください。

## 設定

製品の設定を変更できます。メイン画面から設定を変更する製品を選択した後“設定” アイコンをクリックすると、設定メニューが現れます。設定メニューは製品リストから好きな製品を選択してから、マウスを右クリックして表示することもできます。



- ✓ 設定メニューの一部機能は、製品により対応しない場合があります。

## IPアドレス設定

製品のIPアドレスを変更できます。メイン画面で設定を変更する製品を選択した後、設定メニューで“IPアドレス設定”を選択します。



- ネットワークオプション: 製品に1台以上のネットワークアダプタが設置されている場合、ネットワークアダプタを選択します。
- タイプ: “手動設定”、“DHCP”の中でネットワーク種類を選択した後、ネットワーク接続のための設定値を入力します。詳しくは製品の取扱説明書を参照してください。
- DNSサーバ: DNSサーバのIPアドレスを入力します。DNSサーバを設定すると、UCNサーバ、タイムサーバおよびSMTPサーバの設定時、サーバのIPアドレスの代わりにドメイン名を使用できます。製品がDHCPでネット枠に接続されている場合、“DHCPから取得”を選択するとDHCPサーバからDNSサーバのIPアドレスを自動に受け取ります（一部の製品のみ）。この場合、更新されたアドレスは次の接続時に表示されます。
- UCN設定: UCN機能を使用する時に選択します。項目を選択すると“完了”ボタンが“次へ”ボタンに切り替わります。“次へ”ボタンをクリックしてUCN機能を設定できます。UCN設定に関する詳しい内容は、製品の取扱説明書を参照してください。

## IP Batch Setup

ネットワーク上の様々な装備を選択して順番にIPに変更することができます。

## 遠隔設定

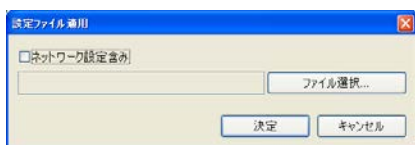
製品の設定をすべて変更できます。詳しくは製品の取扱説明書を参照してください。

## WEB Client

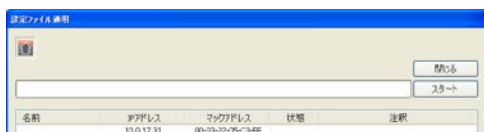
WEB Clientは、インターネット上で別途のプログラムをインストールしなくても製品から送信した映像をリアルタイムで監視できるプログラムで、一般ウェブブラウザ（インターネットエクスプローラ）を使って、いつでもどこでも接続できます（一部の製品のみ）。詳しくは製品の取扱説明書を参照してください。

## 設定ファイル適用

“.dat”ファイルで保存された製品の設定値を複数の製品に一括適用できます。メイン画面で設定を変更する製品を選択した後、設定メニューで“設定ファイル適用”を選択します。



- ネットワーク設定込み: 設定ファイルを適用する時ネットワーク設定（UCN設定を除く）を含むかどうかを選択します。ネットワーク設定に関する詳しい内容は“遠隔設定” - “ネットワーク”メニューを参照してください。
- ファイル選択: このボタンをクリックしてから適用する設定ファイルを選択した後、“確認”ボタンをクリックします。



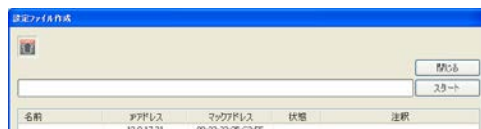
設定ウィンドウの下段に選択した製品のリストが現れます。“スタート”ボタンをクリックすると、選択した設定ファイルの設定値をリス

トの製品に適用します。適用が完了したら“状態”項目に“成功”または“失敗”と結果が表れ、失敗した場合は“備考”に失敗の原因が表示されます。

- ✓ “設定ファイル適用”の場合、製品を選択する時“マルチ選択”オプションに対応していますが、一つ以上の製品を選択した場合“ネットワーク設定込み”項目は対応していません。
- ✓ 設定ファイルを適用するとき設定ファイルのネットワーク設定値が他の製品で使用されている場合、“ネットワーク設定込み”項目を選択しないでください。該当製品に接続する時、正しく接続されない可能性があります。

## 設定ファイル生成

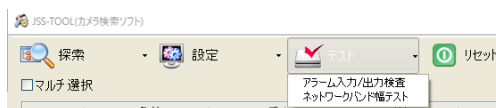
複数の製品の現在の設定値を“.dat”ファイルに生成して保存できます。メイン画面で設定値を保存する製品を選択した後、設定メニューで“設定ファイル生成”を選択すると、設定ファイルを保存するフォルダを指定する画面が現れます。保存するフォルダを指定します。



設定ウィンドウの下段に選択した製品のリストが現れます。“スタート”ボタンをクリックすると、リストに表示される製品の現在設定値を、指定したパスに“.dat”ファイルとして保存します。ファイル名は各製品名とMACアドレスで自動指定されます。保存が完了したら“状態”項目に“成功”または“失敗”と結果が表れ、失敗した場合は“備考”に失敗の原因が表示されます。

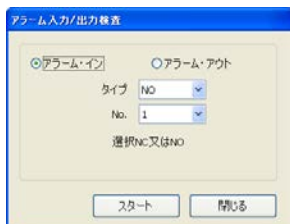
## テスト

製品に接続されたアラーム入出力機器の動作を確認したり、設定した条件でのネットワークバンド幅をテストしたりできます（一部製品のみ）。製品を選択した後“テスト” アイコンをクリックすると、テストメニューが現れます。



## アラーム入力/出力検査

まずアラーム入出力機器が製品に正しく接続されているか確認します。



- アラーム・イン: アラーム入力機器が正しく動作するか確認する時に選択します。接続されたアラーム入力機器のアラーム・インタイプおよび入力番号を選択します。“スタート”ボタンをクリックしてから5秒以内にアラーム入力機器を動作します。アラーム入力検出可否により成功または失敗メッセージを表示します。
- アラーム・アウト: アラーム出力機器が正しく動作するか確認する時に選択します。正しく接続されている場合は、“スタート”ボタンをクリックした後3秒間アラーム・アウト機器が動作します。

## ネットワークバンド幅テスト

現在のネットワークバンド幅で遠隔地に映像を送信時、設定した条件で送信できるかを確認できます。

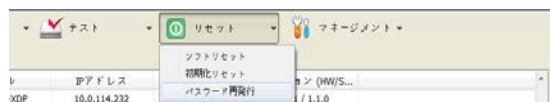


- ネットワークバンド幅テスト: テストする送信条件を設定した後、“スタート”ボタンをクリックします。テストを開始すると、ボタンが“停止”に切り替わります。テストが完了したら“十分”または“N/A”で“バンド幅”項目に結果を表示します。“停止”ボタンをクリックすると、検査を中断します。

- ✓ 実際の映像を送信する時、製品に多数のユーザが同時接続すると、フレームレート (送信速度) が低下して実際の映像送信結果がテスト結果と異なる場合があります。
- ✓ ネットワークバンド幅テストを行う間、他のネットワークの当該製品への接続は解除されます。
- ✓ ネットワークバンド幅テストを行う間、当該PCから他のネットワークへの接続は行わないことをお勧めします。そうでない場合、テスト結果が正確でない可能性があります。

## リセット

製品を再起動したり設定をリセットしたりできます。メイン画面からリセットする製品を選択した後“リセット” アイコンをクリックすると、リセットメニューが現れます。



## ソフトリセット

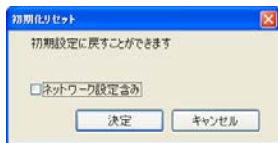
製品を再起動できます。メイン画面で製品を選択した後、リセットメニューで“ソフトリセット”を選択します。



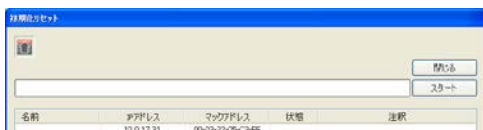
設定ウインドウの下段に選択した製品のリストが現れます。“スタート”ボタンをクリックすると、リストの製品のシステムを再起動します。リセットが完了したら“状態”項目に“成功”または“失敗”と結果が表示され、失敗した場合は“備考”に失敗の原因が表示されます。

## 初期化リセット

製品のすべての設定値を工場出荷時の初期値に戻すことができます。メイン画面で製品を選択した後、リセットメニューで“初期化リセット”を選択します。



初期化リセットを実行する時、ネットワーク設定を含むかどうかを選択した後、“決定”ボタンをクリックします。ネットワーク設定に関する詳しい内容は“遠隔設定” - “ネットワーク”メニューを参照してください。




設定ウィンドウの下段に選択した製品のリストが現れます。“スタート”ボタンをクリックすると、リストの製品の初期化リセットを実行します。リセットが完了したら“状態”項目に“成功”または“失敗”と結果が表れ、失敗した場合は“備考”に失敗の原因が表示されます。初期化リセットを実行した後、システムが再起動します。

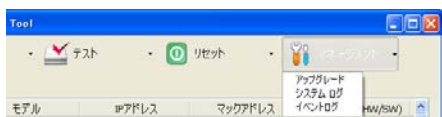
**!** 初期化リセットをする場合、ユーザが指定したすべての設定値が失われます。

## パスワード再発行

※使用できません。

## マネージメント

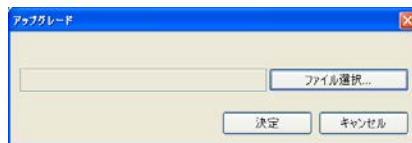
ソフトウェアをアップグレードしたり、システムログおよびイベントログを確認できます。メイン画面から管理する製品を選択した後“マネージメント”  アイコンをクリックすると、マネージメントメニューが現れます。



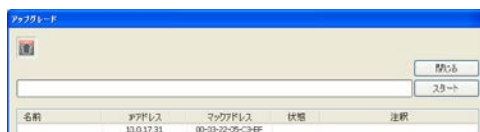
✓ “イベントログ”機能の場合、製品により対応しない場合があります。

## アップグレード

メイン画面から製品を選択した後、管理メニューで“アップグレード”を選択します。



“ファイル選択”ボタンをクリックしてからアップグレードファイルを選択した後、“確認”ボタンをクリックします。



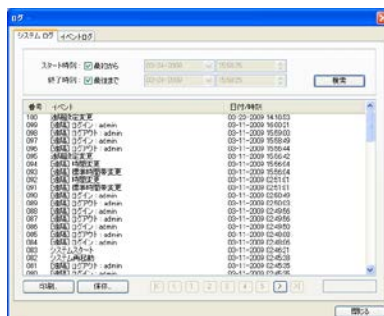
設定ウィンドウの下段に選択した製品のリストが現れます。“スタート”ボタンをクリックすると、リストの製品のソフトウェアをアップグレードします。アップグレードが完了したら“状態”項目に“成功”または“失敗”と結果が表れ、失敗した場合は“備考”に失敗の原因が表示されます。アップグレードが完了したら、製品が再起動します。

**!** アップグレードファイルを変更しないでください。製品が正しく動作しない恐れがあります。

**!** アップグレード中には電源を抜いたりしないでください。製品が破損する恐れがあります。

## システムログ/イベントログ

メイン画面から製品を選択した後、マネージメントメニューで“システムログ”または“イベントログ”を選択します。



- **スタート時刻/終了時刻:** 検索開始および終了日付と時刻を設定します。“最初から”項目を選択すると初めてのログから、“最後まで”項目を選択すると最後のログまで検索を行います。
- **読み込む:** 指定した期間内のシステムログを見る時にクリックします。1ページに最大100件のログを表示します。
- **印刷/保存:** 画面のログ情報を出力するには印刷を、“.txt”ファイルとして保存するには保存ボタンをクリックします。システムログの場合、暗号化されたHTMLファイル(.html)で保存することができます。HTMLファイルを確認するためには暗号入力が必要です。
- **移動ボタン:** 前のページ()、または次のページ()に移動できます。
- **閉じる:** ボタンをクリックするとログページ画面を閉じます。